

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

ホームページ <http://shakaitsushin.cool.coocan.jp/> e-mail: [shakaitsushin@nifty.com](mailto:shakaitsushin@nifty.com)

東京都渋谷区本町六丁目二八―二―九〇四 電話・FAX(03)3299―5367

郵便振替 〇〇―一〇〇―九―五八四三一 労金 中央労金本店 No.1154163

## 〈もくじ〉

### ■巻頭言■

#### 旅 日記

変なおやじ三人の下北半島の旅

高田 勝弘：2

#### 新社会党の現状を憂う

山下 俊幸：4

#### 新社会党は社民党の「下請け機関」？

原野人：7

―共同戦線と第3極について―

#### 世界の動き 激動へ

伊勢 太郎：9

―ウクライナとガザ―

#### 原発のない社会を目指して

起死回生の1万人集会を実現しよう！ ……12

読者からのおたより

……………13

# 旬刊 社会通信

NO.1387

二〇二四年一月一日号

二〇二四年一月一日発行

変な三人組のメンバーは、隊長は小林義昭、長老滝野忠、しもべの高田勝弘でした。車での旅、滝野忠さんは免許証を持っておらず、高田は運転できるのは、自分の車のみ、運転は下手くそで他人の命は保証できない。この為、運転手は隊長の小林義昭さんに決定です。

下北半島はどこですか、私は、全くとんちんかんでした。他人に聞くと「恐山、大間のマグロ、帆立、十和田湖」と返事がありました。

### はじめてのフェリー、船舶で寝る

新潟港から秋田港まで、フェリーでの旅。乗船手続きの際、係りの人は「揺れることもありますが、心配いりません」と話をされる。22時30分出港、新潟港内に船がいるうちに、乾杯（高田は下戸の為お茶でした）、まだ船の揺れは少しでした。船室は2段ベット、夜行寝台列車のA寝台と同じです。

さあ眠りにつこうとすると、外海に出たよう揺れはじめ、「ヤバイ、ヤバイ」との声がきこえてくる。「ミシミシ」とベットの継目のきしむ音がする。何とかなるさと考えているうちに、寝てしまう。翌日4時半に館内放送で起きる。早朝動物の私でさえも、寝不足。

### 朝食はコンビニエンスストア

朝早いせいか、食堂はやっていない。高速道路のサービスエリアには食堂はない。コンビニエンスストアだけである。ローソンである。驚く、秋田県、青森県はローソンが多いらしい。私のところは、セブンイレブンだけである。遠くに岩木山が見える、「山」の字のような山である。

食事に立ち寄った物産館でホタテ丼、海鮮丼を食す。自衛隊募集のパンフレットが置いてあった。自衛隊駐屯地が多くある青森らしい。甘い言葉を並べて若者の心をくすぐる「自衛隊の本務は人殺しする戦闘員です。命を落とす覚悟がない人は採用されません」とは書いてありませんでした。

自衛隊が大手を振って表通りを歩くようになってしまっている。

### 恐山は観光地？

むつ市から細い、うっそうとした道をいくと、硫黄のにおいがしてきた。霊場恐山に到着した。正式名称は「曹洞宗円通寺」、元々は修験者が本堂の裏手の山々で修行していたと伝わっている。

口寄せをするといわれる「いたこ」はいなかった。寒村では男は力仕事で稼いでいたが、女性は学校にも行かせてもらえず、現金を得るため「いたこ」になったといわれて

いる。「いたこ」は宗教が伝わる前からの「人生相談」をしていたともいわれている。敷地内は多くの最近建立されたと思われる仏像、地蔵、供養塔があった。お土産屋さん、お蕎麦屋さんまである。まさに観光地、商魂逞しい、資本主義は寺院、宗教まで及んでいる。

## 大間のマグロ

恐山から峠を過ぎ、海岸線に出る。晴れ、海岸右手に北海道の陸地が見える。本州の果てである。何故か「道路マナー小屋」が集落ごとにある。ホタテの監視小屋かと思っただ。

民宿にいよいよ到着。義昭さんが宿に入るが、車に戻ってこない。滝野さんと「何かトラブルか？宿を間違えたのか？」と話している、その間20分。

何のことはない、主人と義昭さんとが釣り談義で盛り上がっていたのでした。

いよいよお楽しみ夕食には「大間の大トロ、中トロ、赤身、カンパチ、ホタテ、ヒラメの刺身盛り合わせ、マグロの心臓の油炒め、胃袋の味噌和え、モズク」全部地元のものである。そして「松茸の焼物」が出る。生きていてよかった、初めて口にするものだらけでした。

帰りに、宿のご主人から、マグロ釣りの針を頂きました。針は思っていたより小さく、返しもありありません。これでマグロを釣り上げるのは年季が必要です。さすがにプロは違うと感心しました。

## 村を挙げて原燃PR館

六ヶ所村原燃PRセンターを見学。近くには「郷土資料館」もある。石油備蓄基地、風力発電の風車が回っている。敷地内には2つの沼がある。

PR館なので原燃の優位性をPRしてある。但し、原燃建設の巨大な費用、(＝莫大な用地買収費用)には触れていなかった。プルサーマル計画の基でのPRである。

建物はすばらしく立派、売店まである。地元の観光地のパンフレットも置いてある。柏崎刈羽原発のサービスホールと比べると、沖縄を除く全ての電力会社が出資しているだけに立派である。柏崎刈羽原発サービスホールには売店はない、観光案内パンフレットもない。

入り口には、「ゼッケンをつけての入館お断り。敷地内での大声を上げる行為お断り」の張り紙があった。さすが電力資本も学習し、反対派対策に怠りはしない。

下北半島は田んぼが見当たらない。太平洋側は、山背(やませ)のためか、リンゴの木が見当たらず日本海側にある。柏崎刈羽原発の荒浜の砂地を思い出させる。

## 奥入瀬溪谷を散策

十和田湖から流れる奥入瀬溪流。一時間ほど散策、豊かな自然を楽しむことができました。義昭さん、忠さんは何が釣れるのか？いわな？と釣り談義です。

宿に到着、温泉が引いてある宿でした。夕飯はヒメマスの塩焼き、川エビ、わらび、ホタテ、サクラマスのお刺身のごちそうが出ました。

茨城の方と一緒にになりました、一人旅の方でした。きっと「私たち三人組はおかしい、個性豊かで、喧嘩別れするのでは？」とと思っていたのではないのでしょうか。この方も原発には批判的でした。

## ハプニング

十和田湖の宿で私は、大きな声で寝言を言っていたようです。時々自分の寝言でおきることもあります。朝起きると、つれの二人の足が私の頭の方を向いていました。

十和田湖畔の宿を出発する時、パンクに気づき、JFを呼び、応急手当してもらい、大館市に向かい、タイヤを購入。日本海側に出て、酒田市から高速道路、自動車専用道路を利用し新潟に21時過ぎに到着。遅い時間のため、義昭さんの自宅で宿泊、愛犬花子に顔をなめられながら眠りにつきました。

## 孤独死は似合わない

日本海側の高速道路、自動車専用道路にはサービスエリアがないことと、対面通行であることに驚きでした。

初めての長旅でした。義昭さんの家から自宅へ向かう電車の中、町会の電気屋の社長から携帯に着信があった。「顔が見えなかつたので、孤独死していたのかと、心配していた。生きていたね」の声。どうやら、私には孤独死は似合わないようです。心配してもらえて幸せです。

(高田 勝弘)

## 新社会党の現状を憂う

はじめに

新社会党は『新社会党21世紀宣言』を綱領とする社会主義政党であるが、最近の動向について疑問が尽きない。

立憲民主党でも、共産党でもない、社民党を中心とした「護憲の第三極」づくりが最重要課題と位置づける。維新・国民民主が積極的に改憲に動き、世論操作が進み、他方で憲法改悪を許さないとする幅広い共闘が求められている情勢にありながら、社民党にすがりつき「護憲の第三極」づくりが、どれほど意味があるというのだろうか。

新社会党第28回臨時大会(2022・11・12)の長南書記長の集約では、社民党比例代表名簿に岡崎さんを登載して闘ったことについて、一部に批判があったとしながらも、党内外で共感を広め次につなげる一步を踏み出すことができたと確信をもとう、とある。

更に『2023年度新社会党秋季闘争方針』では「護憲の第3極」を強調し、衆議院選挙では社民党に全面協力し、2025年の参議院選挙はまた社民党との政党枠で三たび候補者を立てようとしている。

ここで疑問は、2022年参議院選挙の結果である。新社会党は岡崎彩子さんを社民党の政党枠で立候補させて、結果は得票数1万7466票で惨敗。この結果をどう受け止めるか、同様に社民枠で闘った2010年の原和美さんの3万8813票に比して半数に満たない結果であった。これでは立候補された岡崎さんがあまりにも可哀相だ。闘った成果、具体的評価は示されていない。各地で開催された個人演説会(集会的参加者も少なかったと聞く。獲得票数からみれば惨敗であったことは認めざるをえない現実である。

投票した人は「目に見えない成果」よりも「惨敗」感が胸に突き刺さる。ことさら社民党の政党要件が維持されたことを強調されるが、党员・支持者は果たして納得しているのだろうか疑問だ。敗北を率直に認め、党の現状を正しく認識し、党の組織的前進の目標を改めて打ち立てることなくして新社会党の将来像が見えてこない。社民党の政党要件を維持することを目標とした選挙であるならば論外である。

統一自治体選挙結果については、長南さんは、党29回大会(2023・7・15〜16)で、党組織について「党员と機関紙の減少傾向が止められていない」と嘆いている。

その一方で、長南さんの地元・千葉県について「憲法を活かす会運動のなかで機関紙と党员を増やし、自治体空白地区に新人を擁立した」と好評価(書記長集約)。しかし現実には千葉県本部の党员数は激減し深刻だと聞く。千葉県本部は結党時、都市部では船橋・市川・柏・松戸・習志野・野田・佐倉など多数の市議会議員を擁し(県議は成田市で1名)、党员数は全国的にも比率は大きかった。今や市会議員は数名(公認は佐倉市の1名)、町村議員は長生村など極一部に数名程度。長南さんの地元(野田市)では後継者なしに不戦敗、これが現状でないのか。労働運動への影響力も低下している。

更に憂慮すべきことは、前県本部委員長(元長生村村長、現村議・県本部議員団長)に対し、所属支部長から県本部規律委員会に「査問要請」が出されていると耳にした。事情を知る立場にないが、この深刻な団結のほころびの事態に党员の多くが心を痛めている。

### 先進的闘いに学び、足元を固め仲間を増やす

本年7月に開催された全国大会に期待したが、『新社会』や『社会通信』を読む限り、議論を交わすというより、代議員の意見は聞き置く程度。本部の答弁・集約は期待とは大きくかけ離れた用意された既定路線で、むなしさだけが心に響く。

『新社会』で紹介された、熊本・荒尾市の県議・市議選、徳島や新潟・上越市の県議選など全国で多々評価すべき闘いがあった。問題はここからである。これらの地域における闘いについて、党全体として徹底的に掘り下げて、党の組織作り、日常活動、労働運動、市民運動との関係など、様々な角度から研究し総括し全体のものにできるか。

長南さんが言う「闘う労働組合が少なくなっている」ことに対しても、どのような認識であるか不明だ。党として、その原因を突き止めるは当然の責務である。労働者・労働運動にどれだけ心を寄せ信頼を得る努力をしてきたのか。また、労働者意識が希薄だという青年労働者に対して、働きかけや指導がどうであったのか、どうすべきかを研究

すべきである。党員の圧倒的多数は労働運動を通して社会主義を考え、新社会党に結集しているはずである。党のまわりにいる支持者も同様である。階級政党である新社会党は労働者・労働運動に寄り添い、結びつき、協力・指導を優先すべきではないか。

「党員と機関紙の減少を止められていない」についても率直に、謙虚に、自己批判的に徹底的に研究するテーマであろう。党組織の現状について聞こえてくるのは、残念ながら党組織に対する不信である。

一例を上げよう。数年前、党は「ベージクインカム」を政策として打ち出した。この問題をめぐって少なからず党中央に対する不信が起こり混乱した。地方によっては強引な手法で反対論を封じ込める策動が展開され多くの党員が傷ついた。意見書、反対意見に耳を傾けることなく無視、更には罵声を浴びせる、先輩ずらして怒鳴りつける。あげくは離党まで迫る、これらが民主的議論と言えるのだろうか。北海道では道本部書記長の文書・言動をめぐって混乱に陥り、相当数の離党と支部解散となって表面化した。

### 党の主体性の強化こそ

社会党が日米安保条約を容認、自衛隊の合憲、日の丸・君が代を認め、更に小選挙区制にまで踏み込むという右傾化のなかで、危機感を持った諸先輩の努力によって新社会党が生まれた。そして、新社会党綱領『21世紀宣言』を確立した。党の力が弱くなったので社民党にすり寄り、共産党でもない、立憲民主でもない「護憲の三極」を・・・という方針では、党の存在意義が果たせるか疑問だ。「護憲の第3極」つくりよりも結党時の熱い思いを再確認し、党の主体強化が先ではないのか。

社会党時代に綱領的文書『日本における社会主義への道』（通称「道」）をくり返し学習したように、自ら策定した新社会党綱領『21世紀宣言』を改めて学習し広めることを念願している。自己研鑽、思想の前進が不可欠だ。

そして、この綱領を持つ党のまわりにいる支持者や労働者に自信をもって広め、新社会党の基盤をより強く、より大きくすることなくして党の存立意義はないし、存立すら出来ない。「護憲の三極」を強引に主導するの先に社民党への合流がみえてくる。

悶々とした気分では各種選挙の支援に力が入らない。小手先の「第三極」ではなく、困難な道ではあるが弱さを率直に認め議論し、強固な党の主体づくりを進めながら、各地で自治体議員を増やす努力を積み重ねることなくして国政への復帰は出来ない。

### 私たちの小さな学習会

向坂逸郎先生は著書『日本革命と社会党』で学習活動と理論闘争の重要性を説いている。私たちの小さな学習会『労働・社会科学学習会』は2018年12月、元全電通千葉県支部書記長・元全電通中央反合研代表を担ってきた市原芳樹さんの呼びかけで発足した。当時、新社会党千葉県本部内で党本部が提起した「ベージクインカム(BI)」をめぐって強い反対論があった。私も、そして経験豊富で勉強家の市原さんも強く反対した。

市原さんは同志であった上野建一さんから「左翼小児病」を読むようにとまで侮辱され、党に対する不信と共に危機感を持った。改めて日常の学習活動の重要性を痛感して定例学習会の開催を呼びかけた。学習の基本は「社会主義・階級的労働運動」である。それ以来、私が事務局を担い今日まで40回続けてきた。こんな小さな学習会でも決して平坦とは言えなかった。

まず、新社会党県本部内から「反党行為」として誹謗・批判が上がった。これに対して、党県本部委員長に対し「質問書」を出し妨害をしないよう求めたことがあった。また、「新型コロナウイルス」で会場が確保できず、中止も余儀なくされた。更に2022年5月17日、代表の市原芳樹さんが逝去された。94歳であった。

偉大な先輩である市原さんの「思想と人物」、とりわけ仲間づくり、学習、労働運動・社会主義運動については、本誌No.1363(2022・7・1)に書いたとおりであり、是非改めて読んで頂きたい。

市原さん亡き後、後任の代表をおかず、私が事務局を担い続けることで学習会の継続を決めた。この学習会には市原さんの思想と生き方が引き継がれている。

この学習会が継続している大きな要因として、本誌編集長の滝野忠さんの献身的ご協力と援助があった。手弁当で遠い千葉市まで駆け付けてくれる。資料とレジュメを用意される。甘えてはいけないと思いつつも、学習には「先生」が欠かせない。自分はお世話になるだろう。党と連携できればと思いい、参加者については制限なく呼びかけているのだが、今もって党県本部幹部の評判はよろしくないようだ。大衆集会は単発的であっても、基本学習は定期的かつ継続した実行が求められる。党県本部でもこうした「小さな学習会」を県内各地で無数につくられることを期待している。新社会党のことを考えると空しくなる。本誌で新社会党について書くのは、これを最後とする。(山下 俊幸)

## 新社会党は社民党の「下請け機関」？

### ― 共同戦線と第3極について ―

小林義昭さんはメールでこう書いてくれた。

「総選挙勝利が市民と野党の統一候補の勝利でなく、社民党・新社会党の『共闘』に収斂されています。何のための独立した新社会党なのでしょうかね。」

ひとことで核心が語られている。

新潟のKさんは『社会通信』23年11月1日号で、牧田正樹県議戦初当選の報告の中で次のように述べている。少し長くなるが重要な部分を引用させていただく。

【統一自治体議員選挙は当選することだけが全てでない。しかし、党として立候補するからには、当選することが最大の目的である。岡崎委員長の所属する兵庫県本部は神戸市議会で新人を当選させられなかっただけでなく、現職2名のうち1名を落としている。芦屋市は後継者が届かなかった(三鷹市も)。岡崎彩子選対責任者の山崎秀一副委員長の地元で定数34名の高知市議選で前回の新人を再び当選させられなかった。

新社会党参議院選挙総括で「相対として運動が前進した」としているが、参議院選挙の責任者の2県本部で当てはまるだろうか。党組織全体としても前進したとは言いがたい。

さらに、2021年4月の第26回大会で4年間の激しい議論と3割近くの強い反対があるにもかかわらず、4号・5号一人ひとりには給付を受ける権利において平等であること」「強行採決」した。決定してから、初めての統一自治体議員選挙であった。全ての立候補者の政策を見ることはできなかったが、4号・5号を積極的に推進した県本部の候補者でさえ、政策に「一人ひとりとは：平等である」(BI)を謳っている候補者を見出すことはできなかった。

これでは何のために強行採決したのか分からない。激しい議論と強行採決で残ったのは不信感と対立の深まりである。

運動が厳しく、困難な中で、皆がなかなか展望を見いだせない中でも頑張っている。「路線転換的ともいえる変更」は慎重であるべきである。こういう時にこそ中央指導部の指導性と柔軟性が問われている。】  
全く同感である。

一握りの支配階級は、おごれる強者として腐敗を極めながら、独占資本を頂点とする大資本の利潤のために、巨額で有害無益な軍事費等を拡大し、武器輸出を開始している。安保法制を整備し、敵基地攻撃能力も備えながら、アメリカに協力していつでも派兵ができるように、憲法第9条を踏みにじり改悪しようとしている。

「脱炭素」を名目に原発を復権させ、福島事故などなかったかの如く新增設や、老朽原発の稼働年数延長を推進する。民衆には増税と福祉切り下げを押し付ける。すべては独占資本の利潤拡大のために。

立ち遅れているのは、民衆の命と生活と権利を守り平和を守る護憲勢力である。護憲・立憲諸党は、そのうちに揺れ戻しで何とかなるだろうなどと考えながら、この間、結局そろって後退を余儀なくされてきた。協力が進むかに見えた護憲諸党はバラバラにされている。

必要なのは、大資本のための自民党中心の政府にかえて、闘う市民・労働者国民に支えられ民衆を守る護憲と国民生活擁護の連合政権の実現であり、それをめざす共同闘争を推進することである。資本の側はそれを恐れて、立憲野党の間に分断をもちこみ、選挙協力をさせまいとする。

新たな戦前への道を阻止し、憲法第9条と生活といのちを守るために、護憲・立憲諸党によびかけて、直面する目標で一致する政党と市民団体が共同して闘うことが不可欠である。共同戦線の実現だけが、圧倒的多数の民衆を励まして、うねりを作り、護憲諸党が共に躍進する条件を生み出す。民衆はいかに数が多くとも、バラバラのままでは弱者であるが、ひとたび連帯し共同戦線に結集して、共通の目的のために団結すれば、強者になる。「共同戦線に支えられる憲法を生かす連合政府」(『21世紀宣言』)を勝ちとることができる。これは闘いの発展と諸条件の成熟とともに、社会主義政権に発展させることができる。



我が党は社民党のみと協力するためにあるのではない。社民党と「第3極」を作るためにあるのではない。いまや『週刊新社会』は、頻繁に紙面を飾るようになった社民党との「共同テーブル」の機関紙になった感がある。

党の中執を降りたI君は「共同テーブル」と第3極づくりのために専念するのだろうか。加藤晋介副委員長に逆らって社会主義とは無縁な社民党の中にあくまでも合流し、飲まれたいのごとくである。

それとも新社会党は、社民党の国会議員と政党要件確保のための下請け組織にすつきり成り下がろうというのだろうか。

我が党は、『21世紀宣言』で規定する「マルクスやエンゲルスによって基礎づけられた社会主義の理論を21世紀に適用した民主的な新しい社会主義」を目標としており、社会主義とは縁のない社民党の下請け機関になり下がるわけにはいかない。

当面の我が党は自治体議員を拡充しながら、それぞれに誤りやこだわりを持つ立憲民主党とも共産党とも社民党ともれいわ新選組とも市民諸団体とも協力を惜しまずに連帯を進めて、前記の共同戦線を推進し実現するためにこそ大きな存在意義がある。

(原野人)

## 世界の動き 激動へ ー ウクライナとガザ ー

怖い、悲しい時代、世界は戦争の時代へとまっしぐらです。いや戦争一色です。戦争を「好む」者は誰もいないのにです。ある地域ユニオン機関誌は編集後記に「歴史的な背景や各国の主張があることは分からなくもないですが、なぜ武力で解決しようとするのでしょうか？ 戦争の紛争では何も解決しないし、多くの命が奪われることは歴史が証明しているのに」とありました。戦争はなぜ起こる、戦争の原因を編集後記は問うています。

答えは簡単です。資本主義社会であるから、資本主義の競争原理に原因があるのです。アメリカのバイデンさんと中国の習さんが会談しました。その中で「競争が戦争にならないように危機を管理しましょう」と申し合わせました。ここに戦争の原因があります。ソ連崩壊で社会主義は権威を失ったかに報じられるだけに、資本主義の本質をあらためて学び、資本主義に変わる社会は社会主義であることに確信を持つことが当面の私たちの任務です。

戦争にひた走るのはロシアやNATOでなく、今や日本も後に続いています。口曲がりて横柄な老議員は「台湾有事は日本の有事」、アングロサクソン英米豪がつくる「AUKUSにJ（日本）も加わろう」とドラ声を上げ、中国、北朝鮮、ロシアを挑発します。Jアラートもその一環です。口曲がりてアジア版NATOをつくり日本がアメリカとともに「アジアの警官になろう」「日本はその先頭に立つ」といつているのです。

日本政治の動きは都都市部で自民の右にいる支持者が「自民党はもはやたよりにならん」

と極右政党支持に移っていること、地方でも同じ現象が起き始めていることは最近の選挙が示しています。日本が右傾化一色であることは、町の本屋さんに行けば一目でわかります。本棚は安倍さん本一色ですし、月・週刊誌は「HANADA」「WILL」「中央公論」、「VOICE」「文芸春秋」にあるように極右出版社に占拠されています。労働者の文化、思想を高めてくれる雑誌は何もありません。「世界」はプチブル・インテリの雑誌です。

ヨーロッパ・ユーラシア大陸は、ウクライナを戦場に、アメリカを親分とするヨーロッパの国ぐにと、カナダの30ヶ国でなる多国間軍事条約NATO（北大西洋条約機構）が、2022年からロシアと戦争しています。新しい帝国主義のロシアと古い帝国主義のNATOに支援されるウクライナの利権をめぐる戦争です。ウクライナの6月からの「反転攻勢」は失敗、欧米メディアは「ウクライナはすでに負けている。ウクライナの犠牲をふやしているのはアメリカとゼレンスキー大統領」と報じ始めています。

ぼくらには独自の情報源はありません。垂れ流される情報、宣伝合戦から正しいものを選び、大きな傾向を掴みとる能力がためされるのです。

この戦争にも資本主義の基本矛盾が現れています。両軍はものすごい砲撃戦をおこなっています。ウクライナ軍は一日5000発の150ミリ榴弾砲を使います。生産は世界で月に四万発です。生産が消費に追いつきません。ゼレンスキーは「弾を弾を」とNATO諸国に要求します。NATOは百万発を約束しました。ところが三割しか弾をおくれない、弾をつくれと発破をかけています。資本主義諸国の金融化が製造業を衰退させ、戦争も続けられなくなっているのです。

これがウクライナの状態です。ロシア優位の戦争終結はアメリカの敗北、屈辱です。世界の力関係はアメリカに不利に作用します。

10月7日、中東で新たな戦争、勃発です。パレスチナ勢力のハマスのイスラエルへの反撃です。1973年のこの日を思い浮かべました。ハマスの反撃は正義の戦いです。イスラエルは第二次世界大戦直後、二つの陣営（資本主義と社会主義）の階級闘争のなか、中東の油利権、パレスチナ地域と中東の分断を目的に、アメリカを中心にイギリス、フランスの帝国主義国がつくったのです。

パレスチナを故郷としたアラブ人は故郷を追われました。解放のためアラブの世界は一つとなつてたかいました。パレスチナは二つに分裂させられました。イスラエル領内の小さな地域ヨルダン河西岸とガザ地区です。そして今、ガザ地区はパレスチナを取り戻す勢力が支配していたのです。

ウクライナの戦争はわれわれには「闇」です。ガザは違います。戦争のムゴさ、恐ろしさ、悲惨さ、そして国家権力はいかなるものかが白日にさらしています。

くり返しますが、イスラエルの後楯はアメリカです。イスラエルを第二次大戦後、パレスチナに暴力でつくったのがアメリカだからです。バイデンはまっさきに「支持」を叫び、イスラエルに飛びました。「ハマスはテロ勢力、イスラエルは自衛権がある、アメリカはイスラエルとともにある。全力で支援する」とネタニヤフを励まし、G7にイ

イスラエル支持を強制したのです。

ネタニヤフはダンテの『神曲―地獄編』以上の地獄をガザにつくりました。世界にイスラエルに味方する者は多くありません。これは「ホロコースト」です。

「第二のホロコーストを許すな」の世論が世界中に巻き起こりました。

イスラエルはガザだけでなくパレスチナ人のせん滅を実行しようとしています。パレスチナ人はアラブの一員です。アラブの世界は再びパレスチナとイスラエル（ユダヤ人国家）との関係について考え、行動せざるを得なくなりました。

ほくが世界でもっとも尊敬する人はカストロさんです。「思想は武器に勝る」との言葉です。ガザの10・7はパレスチナの大義復活の日となるうとしています。歴史は、ハマス思想はイスラエルの武器に負けることないことを明らかにするでしょう。

トルコのエルドアン大統領は独裁者で、オポチュニストで信用できませんが、「イスラエルはテロ国家、西側は殺人犯を免罪しようとしている。われわれはジェノサイドに直面している。ガザ戦争は十字架と三日月の戦いだ」と、これ以上ない表現でネタニヤフを糾弾しました。アラブ世界がガザの味方となりました。

優柔不断の国連事務総長すらこう云ったのです。

「① パレスチナ人は56年間、息の詰まる占領下におかれてきた

② イスラエルの攻撃で国連職員ふくむ民間人が犠牲になった

③ いかなる当事者も国際人道主義の上に立つものではない」

これに対してネタニヤフは「グテレスはテロを容認した、国連との関係を見直す」とわめき散らしました。あせりです。明日の己れとイスラエルが恐いのです。戦争終結にはネタニヤフの退陣しかないとの声が、国際的にもイスラエル国内にも現れ始めています。この傾向はウクライナも同じようで、政治腐敗と官僚の汚濁がすすむなか、ゼレンスキーの「独断」を批判する声が高まっています。

ヨロヨロ、ヘタヘタのバイデンさんの大戦略、イスラエルとサウジアラビアを仲よくさせ、イランを孤立させるアブラハム合意は破綻しました。ウクライナ情勢はロシア優位で進んでいます。東アジアではアメリカと中国の経済戦争です。 (伊勢 太郎)

## 原発のない社会を目指して 起死回生の1万人集会を実現しよう！

岸田政権は、先の通常国会で、福島原発事故の教訓から「原発運転期間は原則40年、最長でも60年」とした法律を改悪し、60年超え運転を可能にしました。しかし、世界にも60年を超えて運転した原発はありません。地震、火山噴火、津波の多発する日本での原発60年超え運転は、過酷事故を招きかねません。

岸田政権は、原子力基本法も改悪し、原発の活用を「国の責務」と位置づけました。さらに、原発運転期間の判断権限を規制側の原子力委員会から利用側の経産省に移しました。原発過酷事故を二度と起こさないために、原発の「利用と規制」を分離した経緯を蹂躪するものです。

しかし、岸田首相がどう願望し、法律をどう変えようとも、経済的利益や政治的思惑で原発の老朽化を防ぐ技術や安全性を高める技術が急に向上することはありません。岸田政権の「原発依存社会」への暴走を許してはなりません！

そもそも、岸田政権の「原発依存社会」への暴走は、福島原発事故以降の政権が、事故の教訓を生かさず、原発維持にこだわり、自然エネルギーへの全面切り替えを怠った結末です。日本は、太陽光にも、水にも、風にも、地熱にも恵まれています。もし、先見の明がある政権であったなら、原発に費やされた膨大な税金や電気料金を、自然エネルギーを利用する電源、大容量の蓄電法、省エネ機器の開発と普及に回し、今頃、核燃料、化石燃料など必要のない社会を実現し、世界をリードしていたでしょう。

一方、関西電力（関電）は老朽原発・高浜1、2号機、美浜3号機の再稼働を強行しました。その関電は、装置の不備、トラブル、約束違反、原発マネー不祥事を多発させています。現在の科学技術で制御できない原発を、無理矢理稼働させようとするから、不備、トラブル、約束違反が生じ、人々を欺かなければならなくなり、原発マネー不祥事が発生するのです。

ところで、原発を動かせば使用済み核燃料が溜まりますが、その行き場はありません。子々孫々まで負の遺産となる使用済み核燃料の発生源・原発の即時停止を求めましょう！

今こそ、人類の手におえない原発を全廃し、人の命と尊厳が大切にされる社会の実現に向かって、目に見える行動、耳に聞こえる行動に起きましょう！「原発依存社会」に向かう法令が成立しても、実行させない闘いを前進させましょう！12・3「とめよう！ 原発依存社会への暴走1万人集会」への皆様の賛同、ご支援、ご参加をお願いします。

日時 2023年12月3日（日）

集会 午後1時～

デモ 午後2時30分～

場所 うつぼ公園

（大阪）地下鉄四つ橋線・中央線

「本町駅」25～28出口徒歩5分

主催 老朽原発うごかすな！

実行委員会 090-1965-7102

※ カンパのお願い

振り込み先

（郵便振替） 口座記号・番号… 00990141334563

加入者名… 老朽原発うごかすな！ 実行委員会

右、12・3に向け、よろしくお願いたします。（2023年11月15日 稲村守）



## ◇読者からのおたより◇

イスラエルのジェノサイド 11月3日「9条改憲NO！市民アクション・滋賀」主催でフォトジャーナリストの安田菜津紀さんを招いて「9条改憲を許さない県民集会」がJR栗東駅前「さくら」で200名を集めて行われた。自分の活動初めのころのシリアのことを皮切りに今現在パレスチナで起きていること、子どもたちの叫びを熱く講演された。20年前から天井のない監獄といわれ周囲を包囲され外部との自由な出入りも禁止され、今またイスラエルの攻撃にあつて9000人以上の子どもや市民が虐殺されていることは正にジェノサイドで、イスラエルはハマースの先制攻撃の報復とイスラエルは言っている、しかしこの光景だけを見ても問題の本質は見えてこない。

2011年の東日本大震災以降ガザの子どもたちは、日本の被災者の復興のためメッセージを書いて風揚げしているという。日本のために祈ってくれた子どもたちだからというわけではなく、逆に私たちはガザのことをどれだけ思ってきたかということを感じた。ガザの人の人権をどれだけ考えてきただろうか。

また、ロシアのウクライナへの侵攻は国際法違反と言いながら今回のパレスチナの大量殺戮を見過ぎすアメリカやヨーロッパ。更には日本にもこのことが問われている。イスラエルの攻撃を停止勧告する国連決議に日本が棄権し、同時に岸田総理はこの殺戮が国際法違反かどうか明言を避けている。

ガザの友人から、「ガザについて語ることをやめないで」と言われている。ウクライナでロシアに抵抗する人は英雄と呼ばれるが、でも今回パレスチナ側が占領や殺戮に反対し抵抗すると『テロリスト』と呼ばれている。このように世界のダブルスタンダードと格差のまなざしが存在している。

日本は平和憲法を持ち平和的生存権を自国ならず世界の人にも対象にしている。自国だけが戦争にならなければいいというものではないということを感じます。

今日の話聞いて、自分のまわりの人に広めていただきたい、と。

講演を聞いて、国連決議を無視した侵略の歴史や、ウクライナにおいても東方拡大をヨーロッパやアメリカの西側帝国主義国の策動として正しく見ることも重要と感じた。

(2023年11月5日 脱原発市民ウオークinしが近江八幡2021 沢井 清)

**あれ！新社会党の名がない** 学校には、定期的に郵送されるポスターがあります。スポーツ、図書等です。この内容を読んで気になることが書いてありましたのでお便りしました。学校ですの生徒たちが読めるように張り出しています。2023年9月18日号に、「我が国における政党政治」の見出しで、浦和大学社会学部現代社会学科准教授 林大介氏の記事が出ていました。小見出しは「多種多様な政党」「政党とは何か」「政党政治と連立政権」「ネットを活用した政党によるPR」となっています。

「多様な多彩な政党」では、2022年7月10日に投票が行われた参議院議員通常選挙では、次の15政党からの立候補があり、との説明がされ、政党が紹介されています。

新社会党の大会、地方の党大会では、「岡崎彩子は、新社会党として戦った。」と自信をもつてお話しされていたので、当然ですが、「多様な多彩な政党」に新社会党も紹介されてい

るものと思い目を通しました。自由民主党・立憲民主党・日本維新の会・公明党・国民民主党・日本共産党・れいわ新選組・社会民主党・NHK党・参政党・幸福実現党・ごぼうの党・日本第一党・新党くにもり・維新政党・新風の15政党はありましたが、新社会党の名前はありません。また、社会民主党は1945年設立の日本社会党が1996年改名しています。との説明がありますが、新社会党の名は紹介されていません。

一面どこを見ても、新社会党の党名はありませんでした。「気にすることは無い」と言われるかもしれませんが、党大会で「新社会党として戦った」といくら述べても社会はそう見ていないということです。社会における「新社会党」の現実をこの記事を通して教えられたように思いました。「井の中の蛙」の言葉をかみしめています。

(2023年10月15日 養輪泰臣)

## 古書

先日開催中の従妹の遺作展に東京へ行って来ました。体力(瞬発力も持久力も)がないので午後2時定宿にチェックイン。三時間横になつてから遺作展会場へ。ゆつくり休み寝坊をした翌日、神保町を散策。戦前の中央公論社版の『堺利彦全集』、表紙をめくると「贈呈」の押印がありが全6冊で4千4百円、同じ書籍の塊には向坂先生と懇意であった土屋喬雄先生の自著の自用本が相当数…。『堺』も土屋先生の所有物だったと思われ、大満足。

『向坂逸郎「治安維持法違反事件」裁判記録』を整理しまとめる際に、必要な知識と思い、小島恒久著『日本資本主義論争史』(ありえず書房)と共に長岡新吉著『日本資本主義論争の群像』(ミネルヴァ書房)に、それなりに目を通しました。長岡新吉氏は土屋喬雄先生が亡くなられた時、「土屋喬雄氏の学問的業績」を『社会主義』1988年11月号に書かれていたお弟子さん。

『空想より科学へ』でトラストが論じられており、関連してレーニンの『帝国主義論』を読んでいます。激化するパレスチナとイスラエルの戦火、この戦争も宗教等の衣を身に着けつつも、帝国主義戦争なのだと感じます。膨大な文献や資料を駆使した『帝国主義論』の副題は「平易な概説」です。現代にレーニンがいたら、パレスチナとイスラエル、そしてウクライナとロシア、どのように描くのでしょうか…。ではまた。

(2023年11月9日 松本市 中澤秀行)

## 悲惨

気まぐれ黄昏通信No.208 裏面写真は、別所温泉駅前通りの丸型郵便ポストです。私が生業としている農業悲惨です。畑の片隅の梨の木は花が満開に咲きましたが霜の影響で結実ゼロ。お米は暑さのため胴割れ、白濁米に。りんごは高温障害で、赤くならず。親から譲り受けた農地、守らなければとは思いますが…。

(2023年10月1日 長野県飯綱町 山浦隆芳)

## 生出演

FMふくやま9月25日月曜日8時17分から放送の「GO!GO!びんご市会議員Q&Aボックス」のコーナーでした。

10分と短い時間でしたが、私の想いを十分に発信することができたと思っています。今回は、「まちの保健室(暮らしの保健室)構想」についての話をさせていただきました。ネウボラの「あのね」と地域包括支援センターをうまくドッキングして、子育てと高齢者関連の相談窓口を、市内何カ所かで展開できればという提案でした。12月議会でも改めて提案したいと思っています。

(2023年10月18日 広島県福山市議会議員 西本章)